



オフキャンパスに広がる留学生教育を考える

神戸大学 国際教育総合センター長
教授 河合 成雄

三井V-Netの皆さま方には、神戸大学国際教育総合センター(今年の3月までは留学生センター)は、もっぱら国際交流関係の「一対一交流」でお世話になっており、厚く御礼申し上げます。留学生は日本語がある程度うまい場合でもなかなか大学を離れては日本人と接する機会が少なく、大変ありがたく存じます。



私自身もかつて海外へ留学した者ですが、大学での時間は授業や研究に限られていて意外と現地の人と接する時間が少ないと身を持って感じましたし、留学生は非常に狭い範囲の世界でしか生きていないとも言えるでしょう。それはネットの時代になっても変わらないものだと思います。私個人の体験からも学生を見ていても、留学は後々の人生の土台ができるときであり、私というものが確立される大事なときのひとつなのだと思います。他方、留学というものが、ある程度以上の時間や費用を費やすとなれば、ハイリスクハイリターンなチャレンジであって、尻込みする日本人がいるのもうなずけます。とは言え、留学は決して賭けではなく、しかるべき過程を踏めるようにすれば得るものが大きいはずです。人生での大きなイベントに神戸を選んでくれた留学生に最大限何を支援できるかということは我々の留学生教育での重要なポイントです。

現在、私は20年来留学生を受け入れる側に立ちながら、留学生を通じて国際交流に関わってきていますが、ありきたりのことながら、よりオープンな大学というスタンスで国際交流に臨みたいと改めて考えております。例えば、留学

生の就職一つをとっても、地域との密接な関わりは重要です。留学は、留学中だけに完結したのではなく、留学前から留学後までの視野にたって捉えられるようになってきています。その意味では海外での同窓会を中心としたネットワークづくりも当センターは重要視しています。海外で日本人と留学生の卒業生がともに拠点を形成しながら、大学で得たネットワークをさらに発展させていくというものです。日本人にとっては現地とのコンタクト、元留学生にとっては日本での経験を生かす機会を持ち続けることとなります。これらの事業は、ここ10年余りの新たな動きであり、留学生教育を広く捉えたときに当センターが果たすべき任務であると考えております。さらにこれからはオンキャンパスでの教育だけでなく、オフキャンパスでの広い意味での教育を視野に入れながら活動していきたいと考えております。様々な国際交流プログラムはもちろんのこと、日本語教育一つをとっても、大学内だけでするだけでなく、地域での生活、将来日本で働くための準備などを想定して学外でも、主に学生を対象にして実施していければという展望を持っております。

ここで一つ大事なことは、この10年間で海外同窓会を立ち上げたり維持したりする上で学んだことではありますが、留学生の視点から必要なものを提供する一方で、留学生や卒業生の自主性任せにしておいては、より有効な仕組みが作れないということであって、仕掛けづくりやその維持の努力が欠かせないということです。そのような意味でも、三井V-Netの皆様と一緒に仕事ができる、留学生教育ができるということは、当センターにとっては非常にありがたいことなのです。

ぜひとも三井V-Netの皆様方におかれましては、今後とも留学生とのやりとりを楽しんでいただきながら、ご協力を賜ることができれば幸いです。また留学生に対しては、「一対一交流」等の良さを伝えて行き、結果として卒業生が第二の故郷に神戸を位置づけてくれるようになるならば言うことはありません。



人と人のまんなかに。

本部（東京）

お薦め！ 楽しい留学生との交流

井澤 浩一（東芝OB）

1998年、東芝で主にオーディオ機器の開発が長かった会社人生を終え、自分の小さな会社を立ち上げました。今年で18年、人財教育が主体の会社の社長業を続けています。

技術者ですが、現役時代、海外出張も多くて現地の人々にお世話になりました。三井V-Netの国際交流貢献グループを知り、お世話になった外国の人々への恩返しの意味も含め、2000年に加わりました。中心は東大部会ですが、駒沢大学部会でも数年。

最初の交流相手は、東大の教育学部に客員助教授として来日した、上海師範大学助教授・李



筆者と王さん

軍さん、そして奥様の陳潔さんのお二人。毎週本郷でお会いしていました。その時、日本人なら無意識に使っている「は」「が」など助詞の使い方の質問を受け、的確に答えられず、一念発起して日本語教師養成講座420時間コースを受講。晴れて日本語教師の資格を得て、さるビジネス日本語を教える会社の講師に採用され、社長業と二足の草鞋を現在まで履き続けています。そのきっかけを作ってくれた李さん一家に感謝です。

李さんは東大の後、アメリカ、カナダの大学を経て、現在、香港中文大学の教授です。アメリカ時代、ご長男もお生まれになりました。

留学生との交流は、東大部会は主に本郷で。駒場の生産研でのこともありました。駒大部会は駒沢キャンパスで。今までの相手は短期も含めて、中国、韓国、タイ、オーストラリア、フランスからの計7人。交流期間は平均2年～3年。専門は、東大の李さんと駒大を除き、技術系の修士や博士課程の人。



李さんご家族と筆者夫妻

技術雑誌の記事を題材に、最新の技術を話題にしたり、もちろん文

化をはじめ、社会、経済の話題、日本の観光など、幅広い分野のおしゃべりを楽しんでいます。時には論文や、エントリーシートなどの添削も。

それに、山歩きやお花見、そして三井V-Net主催の見学会なども楽しんでいます。さらに、わが家に呼んだり、彼らの寮などに家内共々呼ばれたり、本当に楽しい交流を続けています。現役時代から現在まで夫婦そろって東芝の合唱団で歌っているの、演奏会に応援に駆けつけてくれる人も。

みなさん、その後も出張などで日本に来ると、連絡をくれ、会っています。

最も楽しく、嬉しかった思い出は、かつての交流相手を訪ねる旅をしたことです。一昨年、香港の李さん一家、駒大部会でお相手をした湖南省の大学教授（日本語、ロシア語）の鄒（シュウ）さん一家、そして、V-Netではありませんが、日本語講師として10年にわたり教えた、ある日本の機械メーカーの累計で60名近くの技術者たち（現在はその会社の北京技術センターに勤務）を、家内と共に訪ねて回り、久しぶりの再会を楽しみました。



現在の交流相手は、中国の王楠さん。工学系博士課程の学生で、修士時代から4年の付き合い 鄒さん(右から二人目)ご家族と筆者夫妻いになります。王さんは日本語だけでなく英語も堪能で、学会やら調査やらで世界中を飛び回っていて、話題も豊富。2時間の楽しいミーティングはあっという間です。

日本語講師もそうですが、交流のためには、改めて日本の歴史や文化を勉強し直しますので、日本の良さを見直すことができるチャンスでもあります。

加えて、留学生との交流は、若い人と接すること。話題を通して新しい知見を増やせることで、古びつつある頭の活性化に役に立ちますよ。その意味でもお勧めです！

留学生との一対一交流（東大柏部会）

中沢 幹雄（商船三井ロジスティクスOB）

私が昨年から交流している留学生は、中国の河北省から来られた王哲さんです。

日本語検定一級を目指していた王さんには、過



去の問題集と日本語検定4級の問題を中心に教えて来ました。

いかに優秀な留学生でも日本語に関しては私の方が圧倒的に強いと自信を持っていましたが時々、その自信が揺らぐことがあります。中沢さん「つかぬことを伺いますが」という「つかぬこと」とは何ですか。また、「遅れをとる」と「遅れる」とどう違うのですか。

こうした質問にたじたじとなって説明をしているといかに自分が日本語を十分理解していないかが分かりました。

一方、王さんからの話で驚くことも少なくありません。少し会話形式にしてみますと。

私 「王さんという名前は一般的なの？」

王さん「はい、中国では非常に多いですよ」

私 「王という姓はどの位多いの？」

王さん「まあ、ざっと1億人くらいはいるかな～」

私 「それじゃ日本の総人口とほぼ同じ数ですよ。何でそんなに多いの？」

王さん「中国は戦乱の時代が長く、敵味方になり捕虜になったりすると同姓だと同じ家系ということで助かることがあったらしい。だから多くの農民が名門の名前に勝手に変えたそうです」

まあ、ざっとこんな調子の話があり、時に時事問題について説明することもあります。

私 「王さん、来年消費税が上がるの知っていますか？」

王さん「はい、知っています。2%上がるのでしよう」

私 「中国の消費税は何%なの？」

王さん「良く分かりません」

私 「だって消費税はあるんでしょう」

王さん「はい、ありますけど、分かりません。商品によって違うんですよ」

私 「そうか。日本の酒税や石油税のように商品に含まれる物品税制度なのか」

王さん「だから誰も税金のことを気にせず、ただ値切って買うことにしています。日本では誰も店で交渉しないのが本当は不思議です」

王さんは、日本語検定一級に合格し、日本企業への就職に向



け活動をしています。
頑張れ王さん！

2016年春 横浜国大部会ウエルカムウオーク

坂本 健 (三井物産OB)

毎年4月、10月入学の留学生を主な対象として、横浜国大が主催するウエルカムウオークを今年は4月16日(土)に催行した。(運営は当部会が担当)

留学生参加者は17名と昨年秋の43名と比較すると少ないが、短期プログラム、大学院英語プログラムの新生は10月に集中するため例年4月参加者は10月より大幅に少なくなる。幸い好天にも恵まれ、みなとみらい地区散策をしながら、部会員と留学生との会話をゆったりと楽しむことができた。今年は幸運にも大棧橋では、片側に飛鳥Ⅱ、反対側にはアラスカ観光の一方の雄であるホランドアメリカラインの豪華客船が接岸していた。ピースボートの船は時々見かけるが、豪華客船に出会うことは稀であり、留学生にとっても絶好のシャッターチャンスであった。



留学生の出身国は韓国4名、中国3名、米国、ベトナム各2名、イタリー、台湾、マレーシア、モンゴル、ブラジル、トンガそれぞれ1名と10か国17名と多岐にわたっていた。

本行程は、桜木町駅南口を起点として、「帆船練習船日本丸」、春は満開の桜花をめながら「汽車道」を通って「ワールドポーターズ」経由「赤煉瓦倉庫」でいったん小休止（前任者が工夫した交差点をできるだけ回避するルートを踏襲）。ここで隊列を整え「象の鼻」経由「開港資料館」へ向かう。開港資料館では時間をたっぷりとり、横浜港開港からの資料を閲覧、開港当時の目撃者(?)である「たまぐす」のエピソードやその絵画を見たりして「大棧橋」に移動。最後に「山下公園」を散策し解散。



あとオプションで中華街関帝廟まで案内するが、例年希望者が多い。他部会の皆様も横浜



にお出かけの折は歩いてみてください。特にお勧めは開港資料館です。

お陰様で事故も無く楽しく終了できました。今回も募集用ポスターを作製頂いた渡辺会員、当日全行程を通じ安全にも心配りをいただいた部会各位に感謝します。

大野山からの富士山を望む（横浜国大部会）

丸山 則二（三井物産OB）

5月7日に予定していた神奈川県立丹沢大山自然公園に属する大野山（標高723m）からの富士山見学を天候の都合で急遽5月5日に変更、改めて参加者を募りました。

急な変更にも関わらず、留学生20名、ボランティア会員10名合計30名が参加してくれました。



晴天の中、横浜駅より出発し、国府津駅経由御殿場線「谷峨駅」で下車、大野山山頂までを往復しました。横浜発の電車が20分遅れるハプニングに見舞われ乗り継ぎの関係で予定より40分ほど遅れての「谷峨駅」出発となりました。

大野山までの登山行程は1時間45分ほどを要しますので、パーティの性格上いつも止むを得ないことですが体調の良し悪しが歩きに現れパーティは前後に長く伸び、最後尾は先頭より15分ほど遅れて山頂に到着。道中途中も山頂からも雪を残した富士山が雲ひとつない青空に映え、絶好の富士見登山となりました。留学生たちは駅を降りてすぐに展開する里山風景にも大いに感銘を受けたようで、盛んに新緑の木々に囲まれた周囲の田園風景をカメラに収めていました。これも後尾のグループが遅れた要因のひとつです。

多くの留学生がこんな美しい風景は見たことがないと感嘆しきりでした。しかし、登るほどに疲れが出て足を一歩持ち上げるのに苦勞する学生や会員もいました。また、非常に暑かったので水分補給には気をつけるよう最初からお願いしていましたが持参した量が少なすぎて思うように補給できず困った人もいましたがみんなで助け合いながら凌ぎました。

山頂では木陰に入って昼食をとりたっぷり休養の後、集合写真を撮り下山。下山時も足の筋肉痛を訴える学生がいてストレッチをやり休み休み

何とか駅までたどり着きましたが随分辛そうでした。幹事も終始様子を見ながら歩いていましたが、感心したのは元気な留学生が常に



付き添って歩いてくれたことです。低山（723m）とはいえ日ごろ筋肉を使っていない人たちには階段続きの坂を登るのは容易ではありませんでしたが、怪我人もなく無事に行程をクリアできたこと、汗をかいて登り、普段ではなかなか見ることができないポジションから富士山を見られたことは本当に良かったと思いますし、留学生にとっては忘れられない思い出になったと思います。

フランス人留学生との交流

竹田 努（三井住友信託OB）

フランス、エクス＝マルセイユ大学から駒澤大学仏教学科に留学したマレシャル・ヤニス君との1年間の交流を紹介します。

彼はフランスで“東洋の言語と文化”を専攻し、日本仏教、特に神仏習合に興味を持っていました。

初めに彼と話し合い、仏教学科のテキスト「日本仏教史」（末木文美士著）を予習・復習を兼ねて一緒に読むことにしました。計画では週1回90分の予定でしたが、初回からとても時間が足りず、毎回3時間の勉強会を1年間継続しました。

先ず私がテキストを段落毎に音読し、つぎに彼が黙読し内容を理解する。読み方の不明な熟語、特に仏教用語の読み方を丁寧に教え、彼が辞書を引きその言葉の意味を理解する。その上で段落全体の意味を確認し解説する、と言った作業を毎週続けました。1年間で仏教伝来から平安の浄土信仰、末法思想まで読み進め、加えて彼が興味を持つ神仏習合まで読むことが出来ました。またレポートのチェックを行ったり、ゼミの課題の維摩経や臨濟録のフランス語から日本語への翻訳について意見を述べたりし、帰国する前最後のゼミで



の発表を聴講させてもらいました。

勉強の合間に、彼はフランス各地方の風土・文化、各

左：筆者 中央：ヤニス君（白糸の滝にて）



人と人のまんなかに。

地の菓子とその由来、家族や彼女について語り、私は日本仏教の現況や、仏教の実践について語りました。

更に学外での交流として、①日本仏教の今を見るため、豪徳寺（招き猫）、巢鴨地蔵（おばあちゃん原宿）、浅草寺四万六千日（ほおずき市）等の参拝 ②今に伝わる仏教文化に触れるため、声明、能・狂言等の鑑賞 ③日本人の宗教感覚、美意識、季節感に触れるため、大相撲の見学、神田明神・将門塚参拝、大宮盆栽村訪問、朝顔市見学、等々を行いました。盆栽村からの帰り道、彼の口からもれた「木漏れ日が美しい」という言葉に驚いたことを覚えています。

グループイベントの歌舞伎鑑賞「義経千本桜 渡海屋・大物浦の段」の1週間前に、能の「船弁慶」を鑑賞することになり、事前に能の台詞、ト書きの英文テキストを用意し、歌舞伎と能の視点の違い、演出の差を能く見るように指導したりもしました。

今、彼はパリ大学の大学院で広く仏教の基礎を学んでいます。何年か後、再会し仏教や禅について語り合うことが出来ればと思っています。

1年間の交流は濃密な時間でした。

初めての伊勢神宮一人旅

駒澤大学留学生 ジェニファー ヴィダール(フランス)



私は2月8日から3泊4日で三重県の伊勢神宮に行きました。新宿から夜行バスに乗って翌朝9時頃に伊勢市駅前に着きました。

伊勢に行きたかった理由はフランスの大学の日本史の先生が「伊勢に天照大神の神宮が有る」と言っていたからです。

私は1人で旅をするのは今回が初めてでした。こういう経験はいい経験だと思いました。泊まる場所はairbabというサイトで予約しました。伊勢市駅前から地図を見ながら宿泊施設まで行くのに1時間もかかりました。なぜなら私は方向音痴だからです。

9日は最初に外宮に行きました。外宮には参拝する場所が沢山あります。一番きれいな豊受大神宮は写真撮影が禁止でした。外宮は全部を見るのに45分ぐらいかかりました。この後は神宮徴古

館に行きました。途中でお腹がすいたのでタイ焼きを2個買いました。とてもおいしかったです。神宮徴古館でも写真を撮るのは禁止でした。おもしろいし、きれいなものがいっぱいあったから写真を撮れないのがとても残念でした。お昼には、おいしいラーメンを食べました。そして月夜見宮神社に行ってお朱印をもらいました。次にお参りした猿田彦神社では恋のおみくじを初めて見たので1個を取りました。そしたら大吉でした。内宮は外宮と同じように参拝する場所がいっぱいあったし、広かったのが全部を見るのに45分ぐらいかかりました。駅に行く前に「おはらい通り」に行きました。そこは日本の昔っぽいな通りでとても綺麗でした。そこで伊勢名物の「たこ棒」を買いました。ちょっと油っぽかったけどおいしかったです。駅では間違えて名古屋に行く電車に乗りそうになりました。その電車は特急だったので私が降りる駅には止まりませんでした。そのことに気づいた時「間違えなくて良かった〜」と思ってひとりで笑いました。その日の夕食には「お好み焼き」を食べました。フランスのお好み焼きの味と日本の味はぜんぜん違って本当においしかったです。お店では店員さんとお客さんと6人で一緒に色々な話をしました。みんな優しい人達だったので話が来てうれしかったです。

翌日は二見浦に行きました。二見浦では砂浜を散歩してから夫婦岩を見に行きました。写真で見た時はいい感じだったから自分の目で直接見れてうれしかったです。夫婦岩へ行く途中の二見興玉神社でご朱印を2枚もらいました。私は神社に参拝して、ご朱印を集めるのが大好きです。二見で少し観光をしてお土産を買って、伊勢うどんを食べました。外は風がふいて本当に寒かったので、頭が痛くなったので部屋に帰りました。部屋に着いたとたん疲れて寝ました。夕食にはフライドライスと卵を食べました。



最後の日は鳥羽の水族館に行きました。海の動物をいっぱい見ました。海亀、蛸、アシカ、カワウソ、セイウチ、ジュゴンなどです。アシカとセイウチのショーを見て楽しかったです。昼食は海の幸(エビ、カニ…)の天ぷら定食を食べました。そのあと鳥羽の見晴台に行ってきれいな景色を見



ました。天気が良くて暖かくて海と鳥が本当にいい感じに見えました。夕食には2日前と同じレストランに行きました。店員さんは私を覚えていて、うれしそうだったから私もうれしかったです。今回はおいしいとんかつを食べました。出発前に店員さんはバスで食べるお菓子をくれました。私はとても感激してうれしかったです。私にとってこの旅行は楽しい旅行でした。良い思い出がいっぱいの一人旅でした。

エリザベス・サンダース・ホーム清掃活動

黒川 敏明 (東レOB)

三井V-Netのボランティア活動の一環として、神奈川県大磯町にあるエリザベス・サンダース・ホームで清掃活動を原則奇数月の第二土曜日に行っている。通常参加する会員メンバーは25名前後である。

エリザベス・サンダース・ホームの敷地は3万㎡を超える広さがあり、敷地内には大小の木々があり落葉樹が多い。その落葉樹が近隣の家々の境に落ち葉となって積ると苦情がくる。そのため、大量の落ち葉の清掃が毎回発生する。その他、枝木の剪定、トンネル内の清掃、敷地内建物の周りの草取り清掃、更に子供達の乗る自転車の修理等もある。



清掃スタート前の準備運動

三井V-Netのボランティア活動は、今年で20年の歴史を迎える。平均寿命は伸び、高齢者でも清掃に集まる会員の皆さんは大変元気ではあるが、会員だけで作業を限られた時間内で終了するのは、体力的に限界を感じながら続けてきた。そうした中、最近では毎回東芝エレベータ株式会社神奈川支社の現役社員の方々に多数参加して戴いている。



会員・東芝エレベータの皆様との集合写真

この方々は年齢的に若く、力仕事、緻密な仕事に大きな力を発揮してくれている。そのお蔭で清掃作業はきれいに片づけられることは勿論、時間内にきちんと終わることになる。

隔月の土曜日とは言え、貴重な時間を割いて大磯まで来て清掃に参加いただけることは本当ありがたい。湘南倶楽部会員一同心から感謝申し上げます。

今後も多忙な毎日であると思うが、可能な限り支援いただければと願う次第である。

多摩川クリーンアップに参加して

高橋 勝栄 (三井不動産OB)



好天に恵まれた4月9日(土)、小田急線和泉多摩川駅で下車、多摩川土手を桜の花びらが舞うのを見ながら集合場所である西河原公園を目指しました。9時に集合して受付、主催者より活動の注意事項の説明を聞いたあと9時30分過ぎ、土手の両側と河川敷を下流に向かって参加者全員活動を開始しました。

主催は狛江市で、多摩川の自然環境を保全することを目的で毎年開催されています。参加者は、三井V-Netのほか、周辺の自治会・商店会・小中学校の生徒・子供会など約2,100名による大イベントでV-Netは10年前から参加しています。(多摩川クリーンアップはV-Net創設当初から春・秋の年2回単独で活動していましたが、春の活動のみ狛江市に合流した形で実施。)

わがグループの12名もごみ袋とトングを手に散開して、初夏の陽気でさわやかな風を受け下流に向けて活動しました。大人数でのごみ拾いであったため手元のごみ袋には、ペットボトル1個、アルミ缶1個、その他の燃えるごみなどわずかの収集でした。約1時間強の活動でしたが、子供たちとも話せて楽しく活動できました。解散場所の多摩川自由広場では、燃えるごみ・ペットボトル・缶・ビン・危険物等にそれぞれ集めた人が収集箱に分類しましたが、昨年参加した時より集積所のごみの量は大幅に減少しているのが印象に残りました。これは土手や河川敷が年々整備されたことまた、当該活動を続けることにより子供から大人まで、ごみを捨てないようにして自然環境豊かな多摩川にしたいとの気持ちの表れではと感じました。これからも自分自身のできる社会貢献と考えクリ



ーンアップ活動に参加していきたいとおもいます。恒例の活動後の昼食親睦会には11名が参加して、ビールで乾杯してのどを潤し、交流を深め次回の活動参加を約して散会しました。事務局の皆さん、会員の皆さんお疲れさまでした。

The sooner, the better

最上 徹（日本製鋼所OB）



「定年になってやる事が無くなったらボランティアでもやって暇つぶしをするか。」

長年の勤務生活を終えて定年を迎えた人や定年満期が近い人などから良く聞く言葉です。では通常軽い意味で使用される「ボランティア」とは一体何のことでしょうか。この変な日本語は会社仕事からは自由になったがまだ元気のある人が、やむを得ぬ親の介護など以外の自由時間に自主的意思で趣味道楽などを気ままに勤しむこと、というようところが現実的理解でしょうか。

確かに今時の定年退職者は、馬車馬の如く世界を股にかけて自己犠牲も厭わず働き続けて定年でやっと長年の苦勞から解放されるのでしょうか。もうこれ以上の束縛や責任からは自由になって穏やかな坂道を下るように悠々自適に生活するという考え方が順当のように聞こえます。

でもわたしはそんな安易な考え方には素直には同調できないのです。近年は企業でも単に収益を上げるだけでなく社会的責任（Social responsibility）が求められる方向に急旋回しています。それは企業だけでなく定年後人間にも同様に求められる責任と考えます。

では具体的には何をどうしたらよいのでしょうか。青少年の国際親善促進、病人の介護活動、災害罹災者の支援活動、自然環境保護活動、文化、芸能、スポーツなどの振興、など枚挙に暇がありませんがいずれも非営利的とはいえ退職者でも健康でさえあればかなりの程度まで可能なことばかりではないですか。

基本はガッテン。でもここで大事なことは、実

際定年になったらまずは骨休めをして閑になったらゆっくり動き出そうという考えでは大抵失敗するということです。自転車に乗っているのと同じで急に止まったら大抵ひっくり返ってしまいますし、助走が無ければ走り出せません。定年の時期は予知できるのですからひっくり返る前に兎に角動き出すことです。こんな状況に有る皆様に多角的に援助するのが三井V-Netです。必ず何かうまいものが見つかります。

電話一本で事は動き始めます。「The sooner, the better」です。

日本赤十字社医療センター(広尾)で5年表彰

神崎 星五子（東洋エンジニアリングOG）

日赤医療センター広尾の中庭に河津桜が綺麗に咲き始めた晴れた日の3月1日「平成27年度ボランティア総会」が開催されました。

私は5年以上、外来受付補佐ボランティア活動をしてまいりましたが、今回病院から感謝状と記念品をいただきました。ひとえに病院スタッフの皆様とお仲間の皆様の優しさをご指導のお蔭と心から御礼申し上げます。また家族の協力と理解にも感謝しております。

現役時代後半、自分自身の不注意で骨折して入院した時に、様々な人達から優しくして戴き、いつかはお返ししたいと思っておりました。退職と同時に三井V-Netに会員登録し活動を開始いたしました。

「無理せず、頑張り過ぎず、明るく」とボランティアの秘訣を飯野義章様から受付ロビーで肩をポンとたたかれて歓迎された日を昨日のように思い出されます。

また、一年に一度行われます医療センター職員の方達との交流会を通じて、モチベーションと継続する力も頂戴しております。



2016年3月1日に開催されたボランティア総会に出席された三井V-Netのボランティアの皆様（中央が筆者）



人と人のまんなかに。

又、おかげさまで医療センター木会幹事の前期世話人故前田正道様より引き継いだお役目も4年間務めさせていただくことができました。

ボランティア活動を通しての体験は、来院されました方達のお役に立っているのか、それともこちらがボランティアされているのかと自問自答することが多かったのですが、それでも心地よい疲労感を得て帰宅する時は幸せに感じております。

あらためてこれからも皆様のお役に立てる機会を大切にして参りたいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

最後に、心のこもった日赤医療センター褒章レモニーにて表彰戴きありがとうございました。

三井記念病院で ボランティアチームが院長表彰

三井記念病院
リレーション部シニアマネージャー
千葉 真一

三井記念病院では、病院運営において特に優れた功績を残した部署あるいはチームに対し、毎年度末に院長賞が贈られます。今年3月22日に表彰式が行われ、院長賞に準ずる健闘賞を、ボランティアチームがいただきました。

『病院ボランティアの皆さまは、当院の「ともに生きる」の理念のもと、患者さんと病院の橋渡し役として、献身的に活動してくださいました。

ここにその成果と努力を称え健闘賞を贈ります。』

表彰式は病院会議という病院全部署の責任者が一同に集まる会議の冒頭に行われ、代表として三井V-Netの松田俊秀様はじめ6人のボランティアの方々に、院長から表彰盾が贈られました。

他の表彰者と院長との記念撮影では、皆さま笑顔で納まるなか、ボランティア活動の病院側責任者である私は、涙腺の緩みを抑えるのに必死でした。

いつも患者さんに優しく親切に接していただき、ボランティアの皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。



(後方) 三井記念病院
高本院長
(前方) 三井V-Net
ボランティア
松田様

これからも患者さんと、そして私たち職員と「ともに生き」ていきたいと思います。

関西支部 (大阪)

NamasteとMaidoの対一交流

丁子 基彦 (三井物産グループOB)

ネパール人留学生、ネギ・バラット・シンさんは、東京大学での修士課程および招聘研究者としての



キャリアを経て、留学生(左)と筆者

2015年4月から神戸大学保健学研究科博士課程に在学中、非常に聡明でありながらも大変気さくで機知に富んだユーモアを持ち合わせた好人物です。身体のご事情で車椅子を常用こそしますが、フットワーク軽くバイタリティに溢れたネギさんには、会う度に元気をわけてもらっています。

交流期間はまだ7ヶ月ばかりながら、歳も近く、同じ年頃の子どもがいることもあり、すぐに意気投合することができました。毎回の交流では食事がてら四方山話に花を咲かせます。初回はネギさん最良の本格カトウマンドカレー店で昼会食、つい最近はお好み焼き屋でビールジョッキを片手に「ネギ焼き」に二人で舌鼓を打ちました。文化交流の面では、もっぱらネパールについてネギさんから教えてもらうことの方が多く申し訳ないですが、私自身も自国を紹介できるよう悪戦苦闘しながら日本文化への造詣を深めつつあります。次回は、ネギさんの奥さんにもご足労いただいて拙宅にてたこ焼きパーティーをする予定です。ネギさんが苦手な日本語の先生役には、5歳の長男に一役買ってもらうこととして、家族ぐるみでお付き合いできればと企んでいます。

ボランティアというにはおこがましく、どちらかという素晴らしい友人をご紹介いただいたというのが本当のところの私の留学生の方との対一交流活動ですが、今後もネギさんとの親交を通じ微力ながら国際交流に貢献できればと願う次第です。末筆ながら、現在私は、転職により三井グループと直接の関わりがなくなってしまったので

すが、この度の寄稿のお話を賜りましたこと光栄の極みであり深謝申し上げます。グループ外ではありますが、三井V-Net関西支部事務局の皆さまのご厚意に甘えつつ、これからも許される限りで国際交流を含む各種活動に携わる機会を賜れば幸甚です。

大阪大学の留学生らと 「毎日新聞社大阪本社見学会」開催

関西支部 事務局

2016年3月15日（火）大阪大学留学生交流のオープニングイベントとして、日本の新聞社の仕組みを理解するため、「毎日新聞社大阪本社見学会」を開催し、大阪大学の留学生ら5名とボランティア8名が参加しました。



刷り上がったばかりの夕刊に見入る留学生たち

編集局や印刷工場などを見て回り、巨大な輪転機や新聞発行システムの素晴らしさに留学生も感嘆して見学していました。参加した留学生からは、「新聞社の様子が現地見学できて感動した」「決められた時間に発送できるようにする皆さんの努力と忙しさが印象に残った」「ガイド様の説明がと



てもよかった」「留学生としてすごくいい経験になり、参加してよかった」等の感想が聞かれました。

中国人留学生 陳さんとの一対一交流

塩川 和子（登録会員）

今まで主人の海外赴任に伴い、海外での生活経験があり、その時々たくさんの方々にお世話になり助けていただきました。少しでも何かの形でお返しすることが出来ればと思い、三井V-Netの一対一交流に参加させていただきました。

自宅が近所ということもあり、大阪大学の留学生の紹介をと無理をお願いし、3月の毎日新聞社見学ツアーを企画して頂いたことから実現することが出来ました。

私が担当させていただいているのが、中国山東省から大阪大学人間科学研究科に留学されている

陳旭洋さんです。私も15年程前に中国山東省に3年程住んでいたことで親近感を覚え、すぐに打ち解けることが出来ました。

陳さんは中国での大学時代、そして日本に来て1年間日本語学校に通ったことで、かなり高いレベルの日本語を習得されています。今は大学院2年生。卒業後は中国に戻らず日本で就職をし、将来は中国のご両親を日本に呼んで一緒に住みたいという夢を持っている日本大好き学生です。

今は就職活動真っ盛り。20社以上にエントリーし頑張っています。

エントリーシートや応募書類に記載する「自己PR」の書き方や、提出する書類の文法表現などについてお手伝いをしています。

自宅がすぐ近所ということもあり、自宅でパソコンと会社説明の資料とにらめっこしながら、時には5年前就職活動を行った経験のある私の長女と一緒に取り組んでいます。

陳さんと私の長女は同じ年。偶然、同じ電車に居合わせてLINEを交換し、先日も3人で一緒に夕食に行き、家族で楽しめるようになってきました。

今の目標は、一社でも内定をもらえること。その目標に向かって、日本人学生に交じって必死で頑張っている素直で明るく元気な陳さんを微力ながら応援しています。

就活が終われば、ほかに興味のある日本文化について、もっと触れ合う機会を持ちたいと話しています。頑張れ！陳さん！！



陳さん(左)と自宅近所の焼鳥屋で食事

2016年春の須磨海岸 クリーンアップに参加して

上井 万里栄（登録会員）

私は、三井V-Netに登録させていただき、今回初めてこの須磨海岸ビーチクリーンアップに参加しました。



筆者(左)と友人

当日は天候もよく、朝の陽ざしがとても心地よかったです。

もともと、美しい海を眺めることが好きで、旅先などではそのような沢山の美しい海を見て、



ゆったりとした時間を過ごし、地球にはこのように美しい場所があるのだと思えることが、日常の支えになったこともありました。日本でもそんな風に海を眺めて、心が穏やかになる時間を過ごせるようになればと思ったことが、今回のごみ拾いに参加した理由です。

実際に参加してみると、やはり海岸には沢山のごみがありました。特にたばこのごみや空き缶・ペットボトルが多く、少し残念に思いました。

しかし、ごみ拾いには多くの団体また参加者がおられ、きれいな海を守りたいという気持ちを同じにしている人が沢山いるということを知れたことが、とても喜ばしく思えました。一緒に参加してくれた友人がいたことも、とても心強かったです。

活動を終えた後はやはり気持ちがよく、今回初めて訪れた須磨の海への見方も少し変わったように思います。

これからも、海やあらゆる自然が美しいまま保たれ、次の世代に引き継いでいけるようにすることが私たちの役目だと思います。日ごろから、気づいたときにごみを拾うなど、小さな行動から続けていきたいと思えます。

今回は初めての参加となりましたが、みなさま快く受け入れて下さり、有意義な時間をいただきましたこととお礼申し上げます。ありがとうございました。



大阪府済生会中津病院 「情報ライブラリー」での活動

太田 里美（登録会員）

中津病院北棟2階にあるこぢんまりとした部屋が情報ライブラリー（患者図書室）です。入口にはボランティアが手作りした季節感あふれる開室案内パネルが有り、温かい雰囲気です。

平日10時から15時が開室時間です。開室時間中

には入院患者さん、外来患者さんはもちろんのこと、病院関係者の方も来てくださいます。

「面白い本はないかな？」とぶらりといらっしゃる患者さんもあり、「どんな本がお好きですか？」などと言いつつ本棚の前で一緒に探します。本談義に花が咲くこともあり、楽しいひと時です。

蔵書数7500冊！ほとんどが寄贈書です。どこからこれだけの本が集まったのかと不思議なほど多種多様な本があります。私が普段は手にしないような本も書棚に沢山あり、感心したり、我が読書範囲の狭さを痛感したりです。ボランティア仲間やコーディネーターから紹介された本を読み、それがきっかけで次々と読む本が広がっていくこともあります。

中津病院情報ライブラリーでは患者さんの希望にきめ細かく柔軟に対応することを大切にしています。できるだけ患者さんに喜んでもらえるよう、本の知識も増やし、患者さんとの対応についても勉強していきたいと思っています。

中津病院でボランティアをしていると楽しいおまけもあります。

雨の中、大学生のボランティア2人と一緒に傘をさしてパンジーの花を摘んだことがありました。押し花にするためです。摘んできた花をティッシュペーパーで水気を取りながら電話帳に挟んでいきました。三人で作業しながらのよもやま話。そんなひと時も楽しい思い出です。この時の押し花は驚くほどきれいにでき上がりました。それを思い出し、今朝ベランダのパンジーを摘んで重しをかけてみました。さて、うまくできるでしょうか。

夫が亡くなってから始めたボランティア活動で



す。活動していると沢山の人と出会います。歳をとってからの友人もできました。社会とどこかでつながっている安心感もあります。中津病院でのボランティアは4年目となりますが、体が動く間は活動を続けたいと思っています。



人と人のまんなかに。

人と防災未来センターでのボランティアについて

濱中 忠（登録会員）

2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。私は4月中旬に仙台に入り1か月余りボランティア活動しました。その後秋にも行き、延べ2か月間余り活動しました。

その後HAT神戸の『人と防災未来センター』（以下、センターと略）で、ボランティアを募集していることを知りました。私は、阪神大震災を実体験していませんが、東日本大震災直後の惨状を見聞いたことを活かして防災・減災を伝えられたらと考え応募し、2012年4月から展示解説ボランティアとして活動を始めました。活動は午前と午後それに金土曜の夜の3つに分かれており、自分の都合の良い曜日、時間帯を週に1回から数回選んで活動することになります。ボランティアには展示解説の他、語学（英語、中国語等）それに語り部があります。展示解説ボランティアは、展示品の説明の他、液状化の実験、耐震・免震等の簡単な実験が主です。年に1回他の同様な防災施設の見学ツアーがあります。また神戸市内、近郊で催される防災・減災関連の各種セミナー、会議等の案内があり、希望があれば参加しやすい環境にあります。センターには、災害、防災、減災等に関する幅広い資料が自由に閲覧できる図書室があります。また周りのボランティアは経験豊かで、それぞれ工夫を凝らした説明をしておられ参考になります。語学ボランティアが比較的少なく、英語の他、最近来客数の多いベトナム、中国の言葉が話せる人が望まれています。



興味のある人には、液状化や耐震・免震の実験をしてみせると、『百聞は一見にしかず』のことわざ通り、より理解して貰えるので、出来るだけ実験をお見せするようにしています。

上述のような環境で、自分自身も防災・減災に関する新しい知識を吸収でき、意識を高めることができます。あなたもボランティアをして南海トラフの地震等いつ起きるか分からない災害に備えませんか。

第5回神戸マラソン 団体ボランティア活動参加日誌

鹿毛 聰（王子製紙OB）

平成27年11月15日（日）、当日の朝6時頃まで降っていた雨も上がり、事務局スタッフの「私は晴れ男です」という宣言が頼もしい。

曇り、無風の午前9時、神戸市役所前をフルマラソン約18,000人、9時30分クォーターマラソン約2,000人のランナーがスタート。フルはポートアイランド、クォーターは須磨浦公園のゴールを目指してそれぞれの思いを胸に一団となって走る。



我々三井V-Netグループ6名の活動は昨年と同じく、クォーターマラソンゴール地点における、到着ランナー約500人分（4Tトラック1台分）の手荷物を返却する作業。



8時15分現地に集しオリエンテーション、9時10分到着したトラックからランナーの手荷物を降ろしてゼッケン

番号順に並べる作業が約30分、10時15分頃から到着し始めるランナーに手荷物返却を開始、ラストランナーに返却完了したのが12時前。

「頑張りましたね」「有難うございます」、労いと感謝の言葉が公園広場に行き交う。

すぐそばの国道2号線を力走するフルマラソンランナーを応援する余裕は殆どないが、作業は昨年経験したこともあり、比較的スムーズに進めることが出来、終了時には風呂上りのビールを一口飲んだような、なんとなく爽やかな気持ちを味わわせてもらった。

私自身も50代の頃にフルマラソンに数回参加したことがあり、沿道の声援や、サポートスタッフの方々の心遣いの有難さを身に染みるほど経験しており、その時にお世話になった分を少しでも恩返し出来たらという思いでこの活動に参加させてもらっている。若いランナーに交じって、ご同輩と思われる方も多数出場されており、力を出しきって満足した顔、少し足を引き摺りながら有難う！とお礼を言われる方など、手伝いをさせてもらっている我々の気持ちまで温かくなる、こんな雰囲気って本当にいいなと感じる。

イベントにおける裏方スタッフのサポート力の



人と人のまんなかに。

重要さ、大変さを改めて実感しながら、少し若返ったような気にさせてくれる、そんな機会を与えて頂いた事務局の皆様へ感謝。



"関西サロン"が面白い

関西支部 事務局

会員の活動分野・活動日が異なり会員間の情報・意見交換を行う場がないことから、会員間の交流促進と三井V-Net活動の活性化を図るため、関西支部事務所に2011年10月、月1回の"関西サロン"を開設、2014年6月以降は隔月にて開催しています。

その運営方針は、●気軽に参加、自由に情報・意見交換 ●毎回テーマを変え、幅広い情報交換(例)今回「留学生交流」、次回「病院・福祉」 ●終了後に有志昼食会(関西サロン番外編)

毎回15名前後の会員が参加、活発な情報交換が行われ、交流の輪が広がって、"定年後の異業種交流"を和気藹々と楽しんでいます。また活動分野間の相互理解により複数分野の活動者が増えています。

更に関西サロンでは、ボランティア活動先として、神戸市立博物館、司馬遼太郎記念館、人と防災未来センター等の見学会を随時開催しています。各種ボランティア活動先の現場を見学することにより、新たなボランティア活動者の募集を促進しています。



上：関西サロン

下：奈良国立博物館 見学会 参加者の皆様

2015年12月11日(金)にはボランティア18名が奈良国立博物館を訪問し、講堂にてボランティアの活動見学と相互交流

を行いました。その後、「庭園」と開催期間中の「おん祭展」を見学しました。参加者からは、「該館ボランティア世界遺産グループの仏様の姿での説明が大変良かった」「良く勉強されていて感心した」等の感想が聞かれ好評でした。

中国支部(広島)

広島平和公園の清掃活動について

中国支部 事務局

中国支部設立以来継続してきた広島平和公園の毎月1回の清掃活動は10年目に入り、5月15日を以て110回となりました。毎月平均25名程度の参加者があり累計では約2800名の方が参加しています。この清掃活動を開始以来、東芝エレベータ(株)中国支社の皆さん、広島経済大学の学生さんには継続して参加いただき中国支部の活動の大きな支えになっています。最近では家族ぐるみの参加者に加え安田女子大学、広島修道大学、観音高校など多くの学生さんにも参加いただき若者が増えてきました。原爆ドームの世界遺産登録に続き、4月の広島でのG7外相会議の開催で、世界各国の政界のトップが平和都市広島象徴であるこの平和公園を訪れました。また5月27日には史上初となる現役のアメリカ大統領オバマ氏がこの公園で演説を行ったことから一段と世界から注目を集め最近特に外国人の姿を多く見るようになりました。これからも会員皆様の支援のもと活動を続けていきます。



安芸高田市八千代町の土師ダム湖畔の桜木の手入れ

中国支部 事務局 佐々木 邦晴

毎年桜の開花前の寒い時期に土師ダム桜守プロジェクトが主催の桜木の手入れのボランティアが



あり今年3月6日に参加しました。毎回約100名程度のボランティアが集まりますが、今回も同様の参加者がありました。大木と大きな枝木のチェーンソーによる切断作業と草刈り機による草刈り作業は、専門の方が作業され、我々一般のボランティアは切断された木を運び易い長さで手ノコで切りそれをまとめて紐で結ぶ作業を行いました。また他にも施肥作業があり、桜が肥料を吸収しやすい根元から2m程度離れた枝下の範囲内に固形の肥料を鍬等で掘って埋めます。また桜の病気として枝が鳥の巣のように密集してくる「てんぐ巣病」の枝木を高所でも使えるノコで取り除く作業をします。今までも何回か参加の中で間伐材の処理、施肥、てんぐ巣病の枝木の除去作業を経験させてもらいました。自然に浸りながらの作業は時間のたつのも忘れさせてくれます。人数が多いので広範囲な作業でもどんどん捗りました。昼には地元の方がヤマメの塩焼き、地元の米を炊いて作ったおむすび、具たくさん格別な味の豚汁、お新香を用意されており大変おいしくいただきました。エネルギーを蓄え、やる気十分な気持ちで昼からの作業につきました。またこのたびは20回という節目であり今まで多くこのボランティアに参加された方が表彰され、桜の記念植樹もされました。後4月の中旬には土師ダム湖畔の6000本の桜が咲き誇り見事な様相をみせてくれました。今年も何キロも渋滞となる大勢の見物客が花見見物におとずれ、家族皆で楽しんでいる姿をみてボランティア活動の喜びを再認識しました。



NPO法人「ひろしま人と樹の会」の森林保全活動について

中国支部 事務局



環境保全の一環として中国支部設立当初より森の手入れの活動についてNPO法人「ひろしま人と樹の会」に

お世話になっています。当法人が主催される森林保全活動を会員皆様に紹介し参加いただいています。森林の伐採はもちろんのこと色々楽しく参加できる行事も企画され参加者からも好評でしたので紹介します。

3月の八千代町土師ダム湖畔の桜木の手入れ、6月のもみのき森林公園での森の手入れ、7月から11月までのそば教室（種まきからそば打ちまで）—そばの種まき、収穫、脱穀、そば粉作り、そば打ち試食、10月の柿もぎ体験、12月の炭作り体験（薪割り、窯入れ、窯出し）、正月の必需品（正月飾り、しめ縄、門松）作り体験等、あらためて時期が来ればご案内しますので、是非参加してみてください。



第40回ひろしまフラワーフェスティバルにおける福祉活動に参加

中国支部 事務局

広島で年間を通して最も大きなイベント「ひろしまフラワーフェスティバル」が今年で40回目を迎えました。広島中心に位置している平和大通り、平和公園周辺にて、5/3のパレードをはじめとして5/5までの3日間、7か所のステージで有名なミュージシャンの歌を含め色々なイベントが催され沢山の出店が出ました。生憎、今年は初日の5/3の目玉である花の総合パレードは朝から本降りの雨でパレードに参加した人、観客共々大変な1日となりましたが、2日、3日目は打って変わって6月上旬並みの気温となり晴天に恵まれ多くの家族連れでにぎわい3日間で141万人の人が集まりました。そのなかで中国支部は広島市社協のボランティア情報センターが募集している福祉活動に毎年参加していますが、今回は原爆ドームの前での車いす介助、フラワーフェスティバルの案内等のボランティアに5/4と5/5の2日間で5名参加しました。今回はこのフラワーフェスティバルに郊外から車いすでバスに乗って5/3の総合パレードと5/5のYOSAKOIパレード（全国でも有名なソーラン節に合わせて踊る）がある日に訪れ、次から次に来



るパレード参加団体の写真撮影をすることを楽しみに来られている高齢の男性に付き添うボランティアでした。一人で車いすに乗って安心して参加されている状況を目の当たりにしてボランティアを受け入れている人、ボランティアを支えている人があればこそと再認識しました。



事務局便り

<事務局長就任挨拶>



本部（東京）誉田 卓也（東芝）
4月1日付けにて前山崎事務局長の後任として着任致しました誉田（ほんだ）です。

日頃は三井V-Netの活動に多大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2009年より三井V-Netの(株)東芝 理事兼運営委員として事業団運営の末席に加えて頂き、6年半の間会員の皆様には大変お世話になりました。今後は皆さま方により近く寄り添う形で共に汗を流したいと考えておりますので、何分若輩者ではございますが、今後とも引き続きご指導ご鞭撻頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、今や人口の四分の一以上が65歳以上という超高齢化社会を迎え、高齢者（シニア）が社会との関わりを通じて活躍できる環境を創出し続けることの重要性は今後ますます増大していきます。1996年に三井業際研究所が中心となって三井グループ有志会社の協力を得て設立された三井V-Netも、今年で20周年という一つの節目を迎え、社会からの期待も誠に大なるものがあります。今後30周年、40周年を迎えても三井グループ企業出身のシニアの皆さま方の活動の推進、支援を通し、三井グループ全体としての社会に貢献し続けられるよう努力を積み重ねたいと思います。

最後になりましたが、リーマン・ショック、東日本大震災により、事業団運営の大変厳しき環境下、休会会社の復会、事業団運営の効率化等に多

大な功績を上げられた山崎前事務局長の5年間のご尽力、ご努力に敬意を表したいと思います。

引き続き皆さま方のご協力を宜しくお願い致します。

<事務局長退任挨拶>

本部（東京）山崎 俊一（三井住友海上OB）



この度、3月31日をもちまして5年間勤務致しました三井V-Netを退団いたしました。在任中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

5年前は、三井V-Netの知識や業務内容もわからずのまま不安一杯で着任いたしました。理事長、事務局の皆様のご支援、ご指導により大過なく業務を遂行することができ、皆様と楽しく仕事ことができましたことに深く感謝申し上げます。

ボランティア会員とりわけ幹事、部会世話人の皆様には、三井V-Netの態勢が厳しいなか運営にご尽力いただき部会を支えていただいたことに感謝申し上げます。また各ボランティア活動には温かく迎えていただき楽しい時間を過ごさせていただきました。この5年間の人、場所との出会いは忘れられない思い出として、記憶に残り続けると思います。

さて、三井V-Netはこの10月に20年の節目を迎えますが、年々ボランティア会員数も増え、20年の活動の積み重ねが、今では受け入れ先から信頼され高い評価を得ています。これからも各関係先との良好な関係を維持し三井V-Netが発展されることを祈念しています。

これからはボランティア会員として三井V-Netの活動を楽しみたいと存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、三井V-Netに携わる皆様の益々のご隆昌とご多幸を祈念いたしまして、退任のご挨拶とさせていただきます。5年間ありがとうございました。

2015年度 「三井V-Net」名義によるダルニー奨学金 への支援報告

三井V-Netでは「書き損じなどによる未使用の官製はがき」や「未使用切手」および「パソコン



用の使用済み純正インクカートリッジ」など資金の源となる物品を一年ごとに収集し、経済的に恵まれないタイ国農村部など東南アジア僻地の子どものための中学就学のために役立てております。

2014年に当事業団の本部（東京）および関西（大阪）・中国（広島）の各支部にお寄せいただいた品々は2015年度分の支援に充てるべく、国に頼らず

民が主体となって社会の発展と平和への貢献をめざす公益財団法人『民際センター』へ送付し、そこでの換金作業を経て三井V-Netの名義にて提供いたしました。おかげさまで前年度のほぼ倍の7名もの奨学生の学校生活を支援することができ、



皆様のご協力により奨学金を授与されたタイの男子中学生

そのうち2名は本年3月無事卒業に至りました。

ご登録いただいているボランティア会員の皆様はじめ、会員会社の現役社員の方々や当事業団のニュースレターやホームページをご覧いただいた多くの一般の皆様にもあらためて深く感謝申し上げます。

引き続き皆様のご理解のもと、心温まるご支援をお願い申し上げます。

予告

第10回エリザベス・サンダース・ホーム「チャリティコンサート」開催予告

日時： 2016年11月6日（日）

会場： 聖ステパノ学園「海の見えるホール」

物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

集まった品々は年末に一年分を取りまとめ協力団体を経由して換金のうえ、東南アジア僻地の子供たちの中学就学やインドでの女性の生活向上と農業プロジェクトおよびインドネシアにおける給水・農業の技術指導など各事業の支援に役立てています。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもお声をかけていただければたいへん幸甚でございます。ご協力を心よりお待ちしております。

ご提供いただきたい物品

- 未使用はがき・書き損じはがき
- 切手（国内外、使用・未使用問わず）
- プリペイドカード（使用・未使用問わず）
- 使用済み（純正）インクカートリッジ



ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部
もしくは各支部あて

■本部（東京）

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035

■関西支部（大阪）

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681

■中国支部（広島）

〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F
TEL/FAX: 082-222-5101

三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。

ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

ボランティア活動会員登録票		(関東地域) 03-5570-8035	
		FAX (関西地域) 06-4396-8681	
		(中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
記入日 20 年 月 日			
氏名	(フリガナ)	生年月日	19 年 月 日
		性別	[]男・[]女
住所	郵便番号	-	
自宅電話番号	-	-	
自宅FAX番号	-	-	
携帯電話番号	-	-	
メールアドレス			
出身企業/勤務先			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでの手伝い等)		
	⑤ [] 文化・教育(文化施設での手伝い、アジアの児童の奨学金支援)		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[] 出身企業の紹介	[] ホームページを見て	[] ニュースレターを見て	
[] 知人()の紹介	[] その他()		

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 榎本ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>